

研 究 主 論 文 抄 録

論文題目 「土木遺産保全における基礎自治体の役割に関する研究」
(Role of Local Governments in Conservation of Civil Engineering Heritage)

熊本大学大学院自然科学研究科 環境共生工学 専攻 社会環境マネジメント 講座
(主任指導 小林 一郎 教授)

論文提出者 永村 景子
(by Keiko NAGAMURA)

主論文要旨

《本文》

第1章は序論であり、研究の背景と目的、本研究の位置づけ等を述べた。

第2章では、土木遺産保全における基礎自治体の役割を検討するにあたって前提となる、社会情勢や地方分権改革、基礎自治体の行政運営の特性などの情報を整理した。さらに基礎自治体の視点で、土木遺産保全計画には微視的な視点、巨視的な視点の両方からのアプローチが必要であることを述べた。

第3章では土木遺産の保存問題の比較分析により、所管主体である基礎自治体の行動の重要性を指摘し、基礎自治体の視点から見た土木遺産保存の意義を考察した。土木遺産保存を契機として、基礎自治体は土木遺産の存在する空間を活かしたまちづくりを展開する気運と機会を得る。土木遺産保存をまちづくりに移行する政策プロセスでは、土木遺産の”地域にとっての価値”を見出す必要があり、2つの行動を要する。Ⅰ.課題設定における行動Ⅰ：歴史・文化的文脈の理解、Ⅱ.立案・Ⅲ.決定における行動Ⅱ：積極的な利活用、の2つである。

第4章では土木遺産の価値を利用形態からみた価値分類(利用価値・非利用価値)にもとづき把握する視点を示した。廃止された鉄道土木遺産の利活用状況を整理するとともに、事例を用いて”地域にとっての価値”判断(行動Ⅰ, 行動Ⅱ)を示した。さらに学術的評価の有無に着目し、2つの事例について利活用プロセスを比較分析し、基礎自治体による鉄道土木遺産保全に向けた運用の流れを一般化した。

第5章では、第3章と第4章の分析・考察をもとに基礎自治体による土木遺産運用過程を整理するとともに、土木遺産保全における基礎自治体の役割にかんする提言を示した。面的に存在する土木遺産保全事例を対象として取り上げ、土木遺産運用の提言に沿って、土木遺産運用状況の把握や保全の評価を行った。基礎自治体にとっては、(A)土木遺産を運用する手がかりとして、あるいは(B)土木遺産を活かしたまちづくり政策の進行状況の把握において有効であることを述べた。さらに市民や専門家にとっては、保全要請や保全提案、土木遺産活用事例を参照する際の糸口として、有効であることを示した。